

事業所自己評価シート

令和6年度

職員による自己評価

A環境面・体制整備
活動のスペースは十分ではない部分もあるが仕方ない。人数が少ない分広く使えている。
トイレ、入口に段差がありバリアフリーではない

B適切な支援の提供
支援計画に基づいて支援をしているが、子ども主体での活動のため思った通りに行かないこともある
一部の学校、幼稚園、保育園等と情報を共有しているがまだ十分ではないと感じる

C保護者への説明等
半年ごとの面談、毎回の支援後の連絡帳で支援内容を説明している。面談の際に家でもできることを伝えている。
今年度はイベントや、保護者同士の交流の機会がほとんどなかった。

D非常時等の対応
避難訓練は安全マニュアルに従って行っているが、保護者への周知が少なかった。安全管理についての発信もしていなかった。

保護者による評価

A環境面・体制整備
活動のスペースは十分ではない部分もあるが適当と思われる。
構造化やバリアフリーには課題もある

B適切な支援の提供
支援の内容にはほぼ満足という回答が多かったが支援プログラムへの工夫
放課後児童クラブや、保育園、幼稚園、地域の人との交流の機会はない

C保護者への説明等
家族支援プログラム、ペアレントトレーニングについては不足している
父母の会開催や、保護者会、保護者同士の交流の機会がない。又は少なかった。

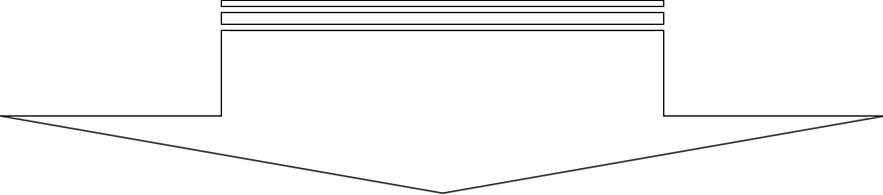
D非常時等の対応
避難訓練の実施がされているか分からなかった
マニュアルが整っているかも不明

事業所内での分析

【共通点】
支援の広さや場所については課題もあるが、今の状況にだいたい満足している。
保護者の交流の機会、学校や地域との交流の機会が少なかった。

【相違点】
保護者へのアドバイス等行っているが、ペアレントトレーニングと言う形では行っていなかった。
安全管理はしているが、伝えきれていなかった。

分析・検討してみて…



事業所の強み

- こどもの人数が少なく、一人一人の特性に合った支援ができる。
- 教材が豊富にある
- 連絡帳や送迎時に子どもの様子を共有できる
- 職員の人数が少なく共有しやすい
- 家のようにくつろいで過ごしている

事業所の改善点

- 避難訓練の周知
- 安全管理についてのお知らせ
- 地域や学校等との交流
- 保護者同士が交流をしたり、情報交換できる場の提供

事業所の改善への取り組み

年に2回避難訓練を実施し、その内容を保護者に周知する
地域や学校等との交流の機会を作る
保護者会や勉強会、保護者同士の交流の機会を提供する
支援プログラムをより良い状態で提供できるよう職員研修の機会を多くする
支援会議を定期的開催し、より良い支援ができるようにしていく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

職員数が減ったことで保護者の皆様にもご心配をおかけしたことと思います。この一年は日々の支援に力を入れてきましたので、来年度はイベントや保護者会、勉強会の開催など、家庭支援、地域支援も視野に入れた活動していければと思います。

限られたスペースでの療育とはなりますが、一人一人のお子様の良いところを伸ばし、できることを増やしていくことを目標に引き続き質の向上に努めたいと思っています。

2025年3月13日

事業所名 ぐっと、あっと鶴見

担当者 松山 由美子